

営農情報(令和6年10月)

作成・監修 勝浦町農業振興推進班

■温州みかん

◇着果管理

樹上選果は、収穫前に商品価値のない極小果、極大果、奇形果、日焼け果、傷果などをあらかじめ摘果する作業です。これらの果実を残しておく、収穫運搬、保管選別、出荷に労力を要するものの加工原料や廃棄物となり、不要な出費を強いられます。収穫前まで園地を見回り樹上選果を行い、青果率の向上と経費の削減に努めましょう。

■ゆず

◇収穫・予措

- ・収穫適期は、10月中旬～11月中旬となる。
- ・用途別の着色程度は、短期貯蔵(冬至用含む)は5～7分着色、長期貯蔵は4～6分着色、貯蔵せず青果として出荷するものは完全着色で収穫する。
- ・加工用(搾汁)の収穫は、少し緑が残った7分着色が搾汁率が高く、酸濃度と香りの高いものがとれる。
- ・ゆずは果皮が軟弱なため、貯蔵用は予措が必須であり、冬至用貯蔵は3%程度、長期貯蔵の場合は常温予措で5%、高温予措で6～8%が目安となる。

■カンキツの施肥

- ・秋肥は、なり疲れによる樹勢の回復と耐寒性の向上、翌春に発生する新梢や花の形成を促進する効果がある。地温が低下する前に施用する。(10a当たり)

種類	施用時期	窒素成分量(kg)	肥料名(例)	施用量(kg)
極早生温州	10月上+11月上	5+5	特A805号	50+50
早生温州	10月下旬	10	〃	100
普通・高糖系温州	11月上旬	10	〃	〃
すだち	10月中旬	7	ニューグリーンすだち	50
ゆず・ゆこう	10月中旬	7	ゆず配合	60

【10月の病害虫防除】

温州みかん

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
発生時	ミカンハダニ	ダニオーテ(フ)または	3,000	前日	1回
		オマイト(水)	750	7日	2回以内
(オマイトは薬害回避のため、10月下旬以降に使用する。)					
発生時	カメムシ類	スタークル(顆)	2,000	前日	3回 〃
収穫前	腐敗防止(早生)	ベフラン(液)25または	2,000	前日	3回 〃
		ベンレート(水)	4,000	前日	4回 〃

すだち

収穫後	かいよう病	ICボルドー66D	50	—	—
-----	-------	-----------	----	---	---

ゆず

収穫前	貯蔵病害 (固着剤)	ベフトップジン(フ) または	1,500	前日	あわせて 2回以内
		ベフラン(液)25	2,000	前日	
		(アピオン-E)	1,000		
発生時	カメムシ類	スタークル(顆)	2,000	前日	3回 〃

かき

発生時	カメムシ類	スタークル(顆)または	2,000	前日	3回 〃
		アクトラ(顆)	2,000	3日	3回 〃

【10月に植え付ける野菜】

■にんにく

- ・上海早生の場合、植付は9月下旬～10月上旬。
- ・種球は、リン片を1片ずつはずし大玉を用いる(5g以上)。
- ・定植前日にリン片を12時間程度、水に浸けておく(発芽を揃えるため)。
- ・リン片を直立にし、5cm程度覆土する
- ・植付後、雑草発生前に除草剤散布(ゴーゴーサン(乳)またはトレファノサイド(乳))。

■エンドウ

- ・播種時期は10月中旬～11月中旬。
- ・連作を嫌うので4～5年間隔で輪作する。
- ・本葉2～3枚ごろが最も耐寒性が強い。越冬時に生育が進みすぎると寒害を受けやすくなるので、その場合は防寒対策を施す。株間は25cm程度。

■そらまめ

- ・播種時期は10月下旬～11月上旬。
- ・連作を嫌うので3～4年間隔で輪作する。
- ・オハグロを下にして、タネが少し見える程度に軽く覆土する。株間は40cm程度。
- ・鳥害の予防や生育を揃えるためには、ポットで育苗するのが望ましい。
- ・生育初期からアブラムシの防除を心がける(例:アドマイヤー(フ)またはモスピラン(顆))。

【10月の病害虫防除】

作物名	対象病害虫	薬剤名	散布濃度	収穫前日数	使用回数
なのはな* (なばな類)	アブラムシ類	スタークル(顆)または パダンSG(水溶)	3,000倍 1,500倍	収穫3日前 収穫7日前	2回以内 3回 //
	コナガ	アフーム(乳)または ノーモルト(乳)	1,000倍 2,000倍	収穫7日前 収穫7日前	2回以内 1回
	ハスモンヨトウ	プレバソン(フ)5 または コテツ(フ)	2,000倍 2,000倍	収穫前日 収穫3日前	3回以内 2回 //

※農薬ラベルには「なのはな」ではなく「なばな類」と記載されています。

だいこん はくさい キャベツ	軟腐病	ICボルドー66D	100倍	—	—
	アブラムシ コナガ ハスモンヨトウ	※薬剤は上記「なのはな」準ずるが、収穫前日数、使用回数については、それぞれ農薬のラベルで確認すること。			

【いきいきファーマーズ視察のお知らせ】

今年度のいきいきファーマーズ県外視察については次のとおり実施します。会員の皆様には通知により出欠確認をします。また、会員でない方も会員登録することにより参加可能(ただし定員40名)ですので、役場農業振興課まで申し出てください。

視察先:株式会社四国総合研究所(香川県高松市)

日 時:令和6年10月8日(火)

視察では、四国総合研究所の近赤外光による青果物鮮度保持技術「iRフレッシュ」について説明を受けます。iRフレッシュは柑橘類を中心に全国の選果場等へ普及しつつある技術で、特定の光を照射することによりカビや腐敗を低減させる四国総合研究所の研究成果です。

＜お問い合わせ先＞

勝浦町農業振興推進班

勝浦町農業振興課42-1505 JA農業振興戦略実践課088-538-7180 徳島農業支援センター088-626-8768